

ジーエルサイエンス 株式会社

2021年3月期 決算説明資料

証券コード：7705

新中期経営計画（2022年3月期－2024年3月期）は
2021年5月27日に弊社ホームページ上にて開示予定

目次

1. 連結決算の概要

- 1-1 事業概要
- 1-2 連結 実績ハイライト
- 1-3 連結 決算実績
- 1-4 セグメント別 決算実績
- 1-5 セグメント別 地域別売上高推移
- 1-6 設備投資額,減価償却費,試験研究費
- 1-7 キャッシュフロー

2. 次期業績見通し

- 2-1 連結 業績見通し
- 2-2 セグメント別 業績見通し

3. 個別決算の概要

- 3-1 分析機器事業について
- 3-2 個別 決算実績
- 3-3 地域別 業績状況
- 3-4 個別 業績見通し
- 3-5 2022年3月期 主な施策

4. 利益配分の基本方針

5. その他



1. 連結決算の概要

ジーエルサイエンスグループ事業概要

分析機器事業

- ・ 当社の主力事業であるクロマトグラフィーは、物質を分離して検出する化学分析手法の一つです。環境中の化学物質や、食品中の農薬などの規制、医薬品開発、製造業における品質管理など、様々な分野で使用されています。当社は、50年以上にわたって、分析機器及び関連する消耗品の提供を通じて社会に貢献しています。

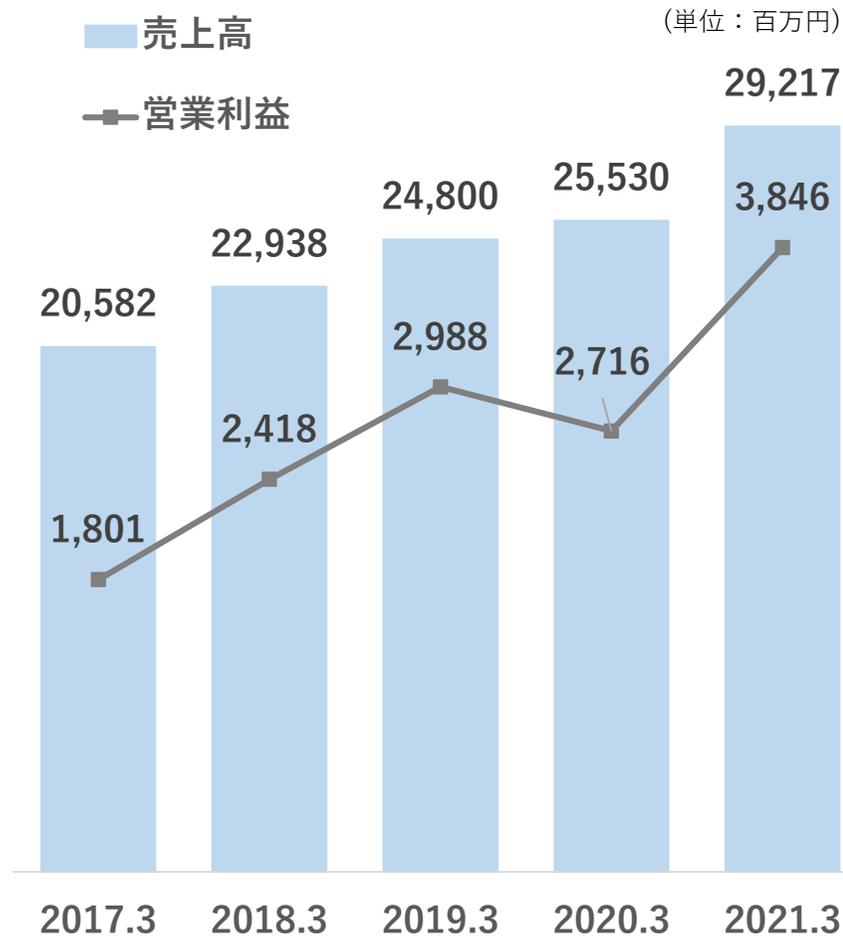
半導体事業

- ・ 主に半導体・液晶製造装置関連及び理化学機器で使用する消耗品となる高精度石英ガラス、結晶シリコン材からなる精密加工部品の製造及び販売が主力事業。高度な品質要求の分野で培われた技術と経験をもとに、世界中のお客様にパーツを提供しています。

自動認識事業

- ・ 非接触 ICカードのリーダー及びライターを中心とした製品開発と販売が主力事業。非接触 ICカードは国際的に普及しており、今後日本においても、磁気カードに代わり普及すると予想され、成長が期待される分野です。

連結 実績ハイライト



売上高
創業以来
過去最高更新

営業利益
創業以来
過去最高更新

当期純利益
創業以来
過去最高更新

営業利益率
13.2%

ROE
10.0%

自己資本比率
61.7%

連結 決算実績

- ◆ 売上高、営業利益、当期純利益 ともに創業以来過去最高を達成
- ◆ 半導体事業の躍進により、増収増益

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	25,530	29,217	14.4%	3,686
営業利益	2,716	3,846	41.6%	1,130
営業利益率	10.6%	13.2%	—	2.6pt
経常利益	2,821	3,915	38.8%	1,094
親会社株主に帰属する当期純利益	1,633	2,257	38.2%	623
1株当たり当期純利益 (EPS)	159.21円	220.00円	38.2%	60.79円

セグメント別 決算実績

- ◆ 分析機器事業 : 海外経済の回復基調および販管費の減少により増収増益
- ◆ 半導体事業 : 豊富な受注残高と工場の高稼働に伴う量産効果により大幅な増収増益
- ◆ 自動認識事業 : コロナ禍により工事案件等が停滞及び遅延、また過剰在庫の評価減等により減収減益

(単位：百万円)

		2020年3月期	2021年3月期	増減比(%)	増減額
分析機器事業	売上高	15,161	15,246	0.6%	84
	営業利益	1,291	1,455	12.6%	163
半導体事業	売上高	9,018	12,732	41.2%	3,714
	営業利益	1,419	2,446	72.4%	1,027
自動認識事業	売上高	1,350	1,238	△8.3%	△112
	営業利益	0	△54	—	△54
合計	売上高	25,530	29,217	14.4%	3,686
	営業利益	2,716	3,846	41.6%	1,130

セグメント別 地域別売上高推移

分析機器事業 日本は新型コロナウイルス感染症の影響にともなう研究開発活動の停滞により、僅かに減収
海外はコロナの影響があったものの製薬関連を中心にインドが大きく伸長 北米も堅調

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比(%)	増減額	構成比
日本	12,297	12,190	△0.9%	△107	80.0%
北米	330	346	4.7%	15	2.3%
アジア	1,871	2,022	8.1%	150	13.3%
その他	661	687	3.9%	25	4.5%
合計	15,161	15,246	0.6%	84	100.0%

半導体事業 世界的な半導体需要の高まりを背景に、日本・海外ともに大きく増加

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比(%)	増減額	構成比
日本	5,252	7,001	33.3%	1,748	58.2%
北米	452	775	71.7%	323	5.0%
アジア	3,297	4,946	50.0%	1,649	36.6%
その他	16	9	△44.0%	△7	0.2%
合計	9,018	12,732	41.2%	3,714	100.0%

設備投資額・減価償却費・試験研究費

設備投資額

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	902	2,301	155.2%	1,399
半導体事業	491	1,156	135.5%	665
自動認識事業	39	10	△73.8%	△28
合計	1,431	3,466	142.1%	2,034

減価償却費

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	476	506	6.2%	29
半導体事業	573	590	3.0%	17
自動認識事業	21	32	53.0%	11
合計	1,070	1,128	5.4%	58

試験研究費

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	657	664	1.1%	7
半導体事業	3	3	—	—
自動認識事業	106	85	△19.6%	△20
合計	768	753	△1.9%	△14

◆ 設備投資額

分析機器事業：福島工場内に中央管理棟を施工（2020年7月）
ハーモニータワーのワンフロアを購入（2020年9月）
半導体事業：中国に第3工場を建設中（2021年6月末竣工予定）

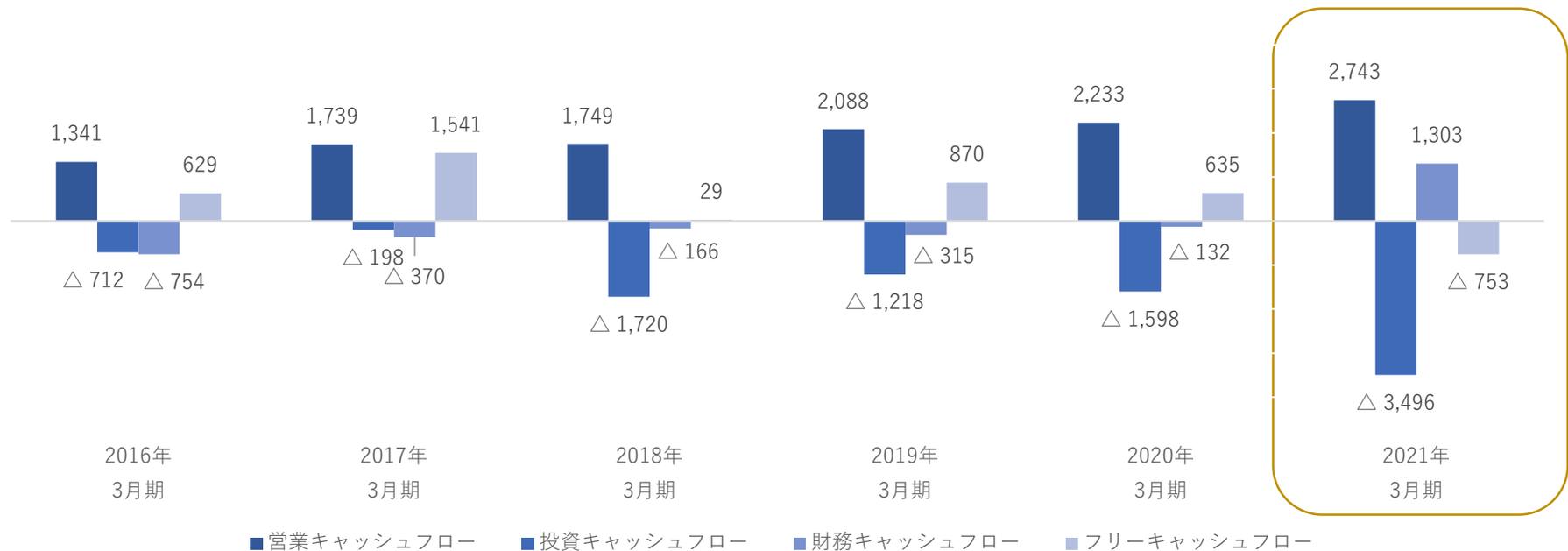
◆ 減価償却費

製造設備増強等により微増

キャッシュフロー

- ◆ 当期純利益の増加等により、営業キャッシュフローは、2,743百万円
- ◆ 有形固定資産の取得等により、投資キャッシュフローは、△3,496百万円
- ◆ 借入金の増加等により、財務キャッシュフローは、1,303百万円

(単位：百万円)



2. 次期業績見通し

連結業績見通し

- ◆ 分析機器事業は、世界経済が正常に戻るにつれ今後も安定的に成長すると予測
- ◆ データ、人、システムを繋いだデジタル技術の採用促進により、今後も半導体事業の活況は続くと予測
- ◆ 当社グループは、新たな中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期)の各施策を遂行することにより、更なる経営基盤の強化と企業価値の増大を図る

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期(見通し)	増減比(%)	増減額
売上高	29,217	29,880	2.3%	662
<div style="text-align: right; font-size: small;">会計基準変更前※</div>	29,217	30,380	4.0%	1,162
営業利益	3,846	4,140	7.6%	293
営業利益率	13.2%	13.9%	—	0.7pt
経常利益	3,915	4,190	7.0%	274
親会社株主に帰属する当期純利益	2,257	2,410	6.8%	152

※2022年3月期から適用される、収益認識に関する会計基準変更の影響を除いた場合の売上高

セグメント別業績見通し

- ◆ 分析機器事業 : 持続的成長のために戦略的投資を行い、安定成長を見込む
- ◆ 半導体事業 : 足元の受注残高は過去最高レベルの水準 中長期的にも受注拡大の見通し
- ◆ 自動認識事業 : 事業構造改革を進め、売上高の安定的向上と利益率の改善を目指す

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期(見通し)	増減比(%)	増減額
分析機器事業 売上高		15,450	1.3%	203
	会計基準変更前※ 15,246	15,950	4.6%	703
営業利益	1,455	1,640	12.7%	184
半導体事業 売上高	12,732	13,040	2.4%	308
営業利益	2,446	2,460	0.6%	14
自動認識事業 売上高	1,238	1,390	12.3%	152
営業利益	△54	30	—	84

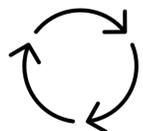
※2022年3月期から適用される、収益認識に関する会計基準変更の影響を除いた場合の売上高

3. 個別決算の概要

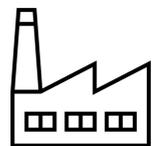
分析機器事業について

ジーエルサイエンス

顧客



製品開発



自社工場

福島県・埼玉県



営業所

国内10か所



消耗品



LC充填カラム



GCキャピラリーカラム



固相抽出カラム



アクセサリ類

装置



ガスクロマトグラフ
高速液体クロマトグラフ



水質測定装置



試料前処理装置



特殊・特注装置

個別 決算実績

- ◆ 売上高：新型コロナウイルス感染症の影響により、研究開発活動の停滞が見られたが前期比プラスで着地
- ◆ 営業利益：売上高の増加及び販管費への影響（出張規制や学会中止等）により増益

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	14,024	14,159	1.0%	135
営業利益	1,102	1,186	7.6%	83
営業利益率	7.9%	8.4%	—	0.5pt
経常利益	1,234	1,411	14.4%	177
当期純利益	956	1,183	23.8%	227
国内売上高	11,742	11,643	△0.8%	△99
海外売上高	2,281	2,516	10.3%	235
装置売上高	5,118	5,056	△1.2%	△62
消耗品売上高	8,905	9,103	2.2%	198

地域別 業績状況

国内

製造業における品質管理や化学分析の研究などはテレワークの促進により一時期減少
環境中の化学物質や食品中の農薬などの規制対象物の分析は、堅調に推移
高額な他社分析装置がマイナス

消耗品



テレワーク促進による分析業務の低下により前半は減少傾向
後半は未消化予算が動き、消耗品売上は前期比プラスで着地
主力製品であるLC充填カラムは前期並みで着地
消耗品全体では、ソリューション提供力が強みに働く

装置



研究開発活動の停滞により、他社分析装置が減収
特注のシステム装置は好調
半導体市場の活況により半導体関連装置が好調

地域別 業績状況

海外

アジア



技尔（上海）商貿有限公司

いち早くコロナの影響を脱しつつあった中国市場の堅調さと深刻なコロナ禍の中、製薬の大きな伸びに支えられて好調なインドを主たる要因として売上高前年比増加

欧州



GL Sciences B.V.

新型コロナウイルス感染症の影響はあったが消耗品市場は堅調であり前期比微減に留まる

北米



GL Sciences, Inc.

製薬を中心とした消耗品市場は堅調であり売上増加につながる

個別業績見通し

- ◆ 既存製品のカバレッジ強化、新しいビジネス製品の探索などにより、安定成長を見込む
- ◆ 経営環境の変化に迅速に対応し、新たな中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期)の各施策を遂行することにより更なる経営基盤の強化と企業価値の増大を図る

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期(見通し)	増減比(%)	増減額
売上高	14,159	14,000 14,500	△1.1% 2.4%	△159 340
営業利益	1,186	1,450	22.3%	263
営業利益率	8.4%	10.4%	—	2.0pt
経常利益	1,411	1,599	13.3%	187
当期純利益	1,183	1,196	1.1%	13

会計基準変更前※

※2022年3月期から適用される、収益認識に関する会計基準変更の影響を除いた場合の売上高

2022年3月期 主な施策

全社

既存製品のカバレッジ強化
新しいビジネスの創出
製造効率の向上による採算性の向上

国内

新たな販売手法の確立
物流拠点の新たな設置を検討
他社との関係強化
原子力業界への販売強化

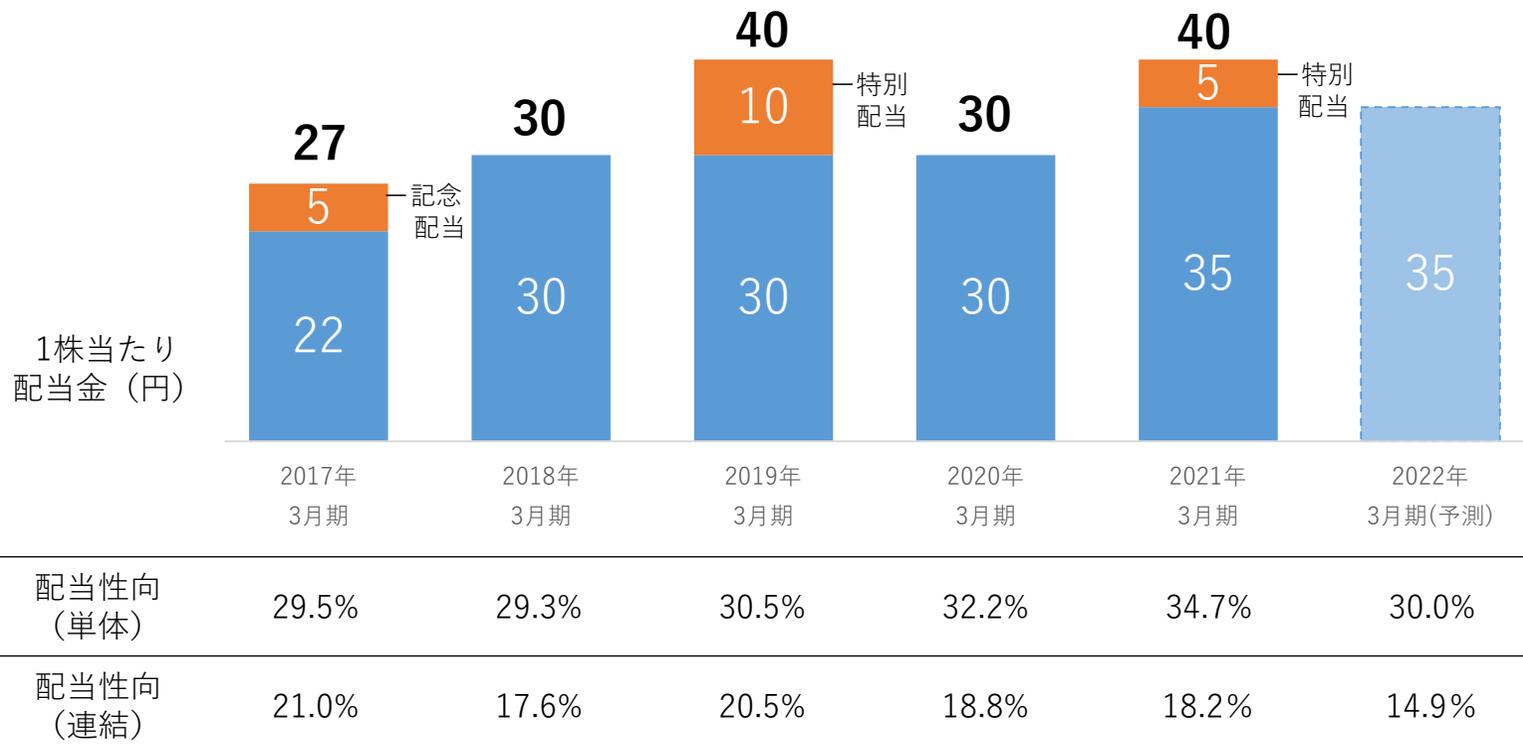
海外

SNSなどを用いた新しい営業方法の開拓
Web上での勉強会開催など代理店との関係強化
拠点の増設（中国）並びに新規代理店の開拓

4. 利益配分の基本方針

株主配当金

利益配分は、当社の配当に関する基本方針に基づき、今後の事業拡大に向けた内部資金の確保と株主各位への長期にわたる安定的な配当を念頭に、財務状態、利益水準、配当性向などを総合的に勘案して実施



今後の事業拡大に向けた投資



研究開発投資

新規事業の創設と探査
製造技術開発の推進



設備投資

増産体制強化の継続
即納体制の構築



人材育成

計画的な育成プログラムの継続
グローバル人材の育成



M & A提携

持続的成長のために新たな領域への進出検討
シナジー効果による事業競争力の強化

5. その他

新型コロナウイルス感染症について

当社の対応

日々変化する状況に応じて、お客様、お取引先、従業員およびその家族の安全確保・感染予防、感染拡大防止を最優先とする方針のもと、事業の継続に向けた対応を随時実施しています。

現在、お客様に対して、オンライン商談やウェビナーを活用した営業活動を行っています。また、当社従業員に対しては、時差通勤の導入、在宅勤務の推奨、出張の制限を実施しております。

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めつつ、お取引先様からのご注文への対応、商品出荷対応を通常通り行っております。

事業面の影響

分析機器事業 : 当社は化学分析の研究活動だけでなく、飲料水や水道水などのライフラインや食の安全に関わる検査等に使用されており、経済の停滞影響を受けにくい業態となります

半導体事業 : 世界的なリモートワークの広がりや、データセンター等メモリー需要の高まりなどプラス要因が強いと見込まれます

自動認識事業 : ソリューションなどの工事を伴うシステム製品に対して先延ばしの状況が続いています



あなたと一緒に地球の未来を考える。

We think about the future of the earth together.

ジーエルサイエンス。



ESG
SDGs

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

ジーエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>